

ヒアリング古典 百人一首 百人一首②

名前 〃

わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと
はらやそしま こい

人には告げよあまの釣舟
ひと っ つりぶね

参議 篁
さんぎ たかむら

天つ風雲の通ひ路吹きとぢよ
あま かぜくも かよいじふ

乙女の姿しばしとどめむ
おとめ すがた ン

僧正遍昭
そうじようへんじよう

筑波嶺の峰より落つるみなのか
つくばね みね お がわ

恋ぞつもりて淵となりぬる
こい ふち

陽成院
ようぜいいん

みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑに
たれ エ

乱れそめにし我ならなくに
みだ われ

河原左大臣
かわらのさだいじん

君がため春の野に出でて若菜摘む
きみ はる の い わかなつ

わが衣手に雪は降りつつ
ころもで ゆき ふ

光孝天皇
こうこうてんのう

ヒアリング古典 百人一首 百人一首②

名前

「

」

立ち別れいなばの山の峰に生ふる
た わか やま みね おウ

まつとし聞かば今帰り来む
き いまかえ コン

中納言行平
ちゅうなごんゆきひら

ちはやぶる神代も聞かず竜田川
かみよ き たつたがわ

からくれなるに水くくるとは
イ みず

在原業平朝臣
ありわらのなりひらあそん

住の江の岸に寄る波よるさへや
すみ え きし よ なみ エ

夢の通ひ路人目よくらむ
ゆめ かよイじひとめ シ

藤原敏行朝臣
ふじわらのとしゆきあそん

難波潟みじかき蘆のふしの間も
なにわがた あし ま

逢はでこの世を過ぐしてよとや
あワ よ す

伊勢
い せ

わびぬれば今はた同じ難波なる
いま おな なにわ

みをつくしても逢はむとぞ思ふ
あワン おもウ

元良親王
もとよししんのう